

第6学年 学年研究の概要

＜研究主題＞

言葉に着目しながら想像を広げて読み、作品に対する自分の考えを進んで広げたり深めたりしようとする子どもの育成

＜主題と子ども＞

最高学年になった子どもたちは、落ち着いた態度で意欲的に学習に取り組んでいる。昨年度は説明的な文章の学習で、段落構成図をかいたり、筆者の説明の仕方を評価したりすることを経験した。その結果、個人差はあるものの、接続語や指示語、文末表現など言葉に着目しながら読んだり、文章構成や要旨を把握したりする力が少しずつ付いてきている。また、互いの考えの理由や根拠の妥当性を検討する話し合いの場を継続して設定したことで、積極的に自分の考えを発表しながら読みを深めていく様子が見られた。しかし、自分の知識や経験と関連付けて文章を読んだり、筆者の主張に対する自分の考えを、筋道を立ててまとめたりすることは、まだ十分ではない。

そこで、今年度は、文学的な文章においても言葉に着目して読む力を育てるとともに、登場人物の心情や表現の効果、主題等について、自分の知識や経験と関連付けて考えたり、理由や根拠を明確にしてまとめたりすることができるようにしたい。さらに、その考えを、子どもたちが主体となって話し合い、積極的に広げたり深めたりすることができるようにしたいと考え、本主題を設定した。

＜研究の重点＞

重 点 項 目	具 体 的 な 方 策
・「読む力」を育てるために	- 子どもが目的意識をもって主体的に文章を読み進めることができるように、子どもの興味・関心や疑問を生かした課題提示や単元構成を工夫する。 - 叙述に即して論理的に読み取る力を伸ばすために、学習課題に対して、根拠になる文を明確にし、自分の言葉で理由付けをする活動を重視する。 - 文章を読む基礎的な力を付けるために、並行読書を生かした単元構成を工夫したり、教材文に関連する図書を紹介したりして、様々な文章を読む機会をつくる。
・「学び合い」を支えるために	- 自分の考えを明確にすることができるように、読み取ったことを基にして自分の考えを書く活動を重視する。 - 子どもたちにとって必要感があり、視点が明確な話し合いになるように、学習課題や発問を工夫する。 - 話し合いを通して自分の考えを広げたり深めたりすることができるように、互いの考えを比較したり、理由や根拠の妥当性について検討したりする場を設定する。

＜重点単元＞

	単 元 名	ね ら い	主 な 学 習 活 動
前学期	○やまなし／イーハトーブの夢	- 作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の感じたことが伝わるように朗読する。 - 場面の情景を捉え、作品の中で使われている表現を味わい、優れた叙述について自分の考えをまとめる。	- 宮沢賢治の生き方や考え方、「やまなし」で伝えたかったことについて自分の考えを書き、話し合う。 - 様子を表す言葉や出来事、比喩表現に着目して読み、場面の情景について想像したことを話し合う。 - 朗読の仕方の工夫について話し合う。 - 朗読を聞き合い、感想を交流する。
後学期	○伝えられてきたもの／柿山伏	「柿山伏」を自分の思いが伝わるように音読する。 - 昔の人のものの見方や感じ方を知る。	- 話の展開の面白さや、山伏と柿主の人物像について話し合う。 - グループで役割を分担し、工夫して音読する。 - 互いの音読を聞き合い、感想を交流する。
＜「読む力」を育てるための日常活動＞ ○読書の励行 ○音読タイム（今月の詩） ○音読カード ○国語辞典・漢字辞典の活用 ○言葉コレクション（言葉集め） ○「話し合いの手引き」活用 ○スピーチタイム ○短作文 ○漢字ミニテスト			

第6学年4組 国語科学習指導案

1 単元名 筆者のものの見方をとらえて読み、自分の考えをまとめよう 『鳥獣戯画』を読む

2 単元の目標

- 筆者の着眼点や『鳥獣戯画』に対する解釈・評価、主張、書き方の工夫に興味をもって読み、話合いを通して自分の考えを広げたり深めたりしようとする。(関心・意欲・態度)
- ◎絵と文章を照らし合わせながら読み、筆者の着眼点や『鳥獣戯画』に対する解釈・評価、主張、書き方の工夫を捉え、筆者の主張に対する自分の考えをまとめることができる。(読むこと)
- 文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 全体計画と評価規準(総時数7時間)

次	時	主な学習活動	教師の主な支援	評価規準
第1次		単元のめあてを確かめ、学習の見通しをもつ。		
	1	○題名について話し合い、p137の絵から読み取ったことを書く。	○子どもたち一人一人が自分なりに絵を読み取ってから筆者の絵の解釈・評価に触れるようにするために、本文を読む前にp137の絵を見て気付いたことや感じたことを書く活動を設定する。	○『鳥獣戯画』の絵から想像を広げ、絵に対する自分と筆者の解釈・評価の違いに興味をもち、感想を書いている。【関】(ノート・観察)
	2	○全文を読み、筆者と自分の絵の見方を比べる。	○尾括型である本教材の特徴を理解することができるように、既習の双括型の説明的文章を提示する。	○文章全体の構成や大体的内容を捉え、筆者の主張に対する自分の考えや感想を書いている。【読】(発言・ノート)
		○意味段落に分けて内容の大体と筆者の主張を捉え、自分の考えを書く。	○本単元では、筆者の解釈・評価、工夫を読み取り、筆者の主張に納得できるかどうか考えていくことを確認する。	
		○学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。		
第2次		『鳥獣戯画』を読むを読み、筆者の着眼点や解釈・評価、主張、書き方の工夫を捉える。		
	3	○筆者の着眼点や、『鳥獣戯画』に対する解釈・評価、主張を読み取る。	○筆者の着眼点や解釈・評価、主張を読み取ることができるように、拡大した絵を掲示し、どの部分に着目しているかを確認しながら話合いを進める。	○筆者の着眼点や解釈・評価、主張について、絵と文章を対照させながら読み取っている。【読】(発言・ノート)
	4			
	5	○筆者の書き方の工夫や意図を捉える。	○筆者の表現や構成の工夫に気付き、その効果や筆者の意図を理解することができるように、文末を変えた文章や、第1・2・8段落を省いた文章を提示し、本文と比較する活動を設定する。	○表現や構成の工夫や効果に気付いている。【読】(発言・ノート)
	6		○筆者が第8段落を書いた意図を明確にしていくために、子どもの発言の意図や根拠になる文を問い返したり、他の子どもに説明させたりして子どもの発言をつなげていく。	○文末表現や助詞の使い方、語句と語句との関係を理解している。【言】(発言・ノート)
				○第8段落を書いた筆者の意図に気付き、第8段落の必要性について自分の考えを明確にしてまとめている。(発言・ノート)
第3次	7	筆者の見解や書き方の工夫に対する自分の考えをまとめ、交流する。		
		○筆者の着眼点や解釈・評価、主張、書き方の工夫に対する自分の考えをまとめ、交流する。	○学習を通して自分の考えが深まったことに気付くことができるように、筆者の主張に対する納得度とその理由を書き、単元の初めの自分の考えと比較するように指示する。	○筆者の解釈や評価、主張、書き方の工夫に対する考えを深め、まとめている。【読】(ノート)

4 本時の実際（6／7）

(1) ねらい

第8段落を書いた筆者の意図に気付き、第8段落の必要性について自分の考えを明確にすることができる。

(2) 学習過程

時間	学習活動	形態	教師の主な支援 評価規準 (方法)
5	1 本時のめあてと問題を確かめる。 第8段落の必要性について自分の考えを明確にしよう。 ・筆者が第8段落を書いた意図は何か。	全体	○第8段落の必要性について、筆者の意図を捉え、その上で判断することが本時のゴールであることを確認する。 ○問題解決の意欲をもたせるために、前時に書いた第8段落の必要性に対する自分の考えを、数名の子どもたちに発表させる。
5	2 筆者が第8段落を入れた意図を考え、ノートに書く。	3人 ↓ 個	○問題解決の糸口を見付けることができるように、自分の考えをノートに書く前に第8段落を音読し、3人組で話し合う活動を設定する。
25	3 筆者が第8段落を書いた意図やその効果について話し合う。 ・絵巻から漫画やアニメまでのつながりや、日本文化の特色について読者に知らせる。→『鳥獣戯画』はその始まりであることが分かり、そのすばらしさがより一層、読者に伝わる。→筆者の主張（「人類の宝」）につながる。 ・他にもすぐれた絵巻が描かれたことを読者に知らせる。→その中でも特に『鳥獣戯画』が、楽しくモダンで、自由闊達であることを読者に伝える。→筆者の主張（「人類の宝」）につながる。	少人数 ↓ 全体	○一人一人が自分の考えを確かにして話し合うことができるように、全体の話し合いの前に自由に相手を変えて話し合う活動を設定する。 ○筆者が第8段落を書いた意図を明確にしていくために、子どもの発言の意図や根拠になる文を問い返したり、他の子どもに説明させたりして子どもの発言をつなげていく。 ○他の絵巻のことを挙げる必要性について気付くことができるように、筆者が『鳥獣戯画』により価値を見出していることを、叙述を基に確認し、それなのになぜ他の絵巻のことを書いたのか尋ねる。 ○『鳥獣戯画』と他の絵巻とを比べることで『鳥獣戯画』の自由闊達なよさがより伝わることに気付くように、両者を並べて提示する。
7	4 第8段落の必要性について自分の考えをまとめ、ノートに書く。	個 ↓ 全	○理由を明確にして自分の考えを書くことができるように、話し合いを通して気付いたことを生かして書くように声を掛ける。 第8段落を書いた筆者の意図に気付き、第8段落の必要性について自分の考えを明確にしてまとめている。（発言・ノート）
3	5 本時の学習を振り返る。	個	○自分の考えの変容に気付くことができるように、最初の考えとどのように変わったのかを書くように声を掛ける。